

令和7年度 放出中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 放出中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	101	53	46	5.8	8.7	学校	
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	102	66.1	48.5	50.4	41.7	53.9	4.3	5.9	12.3	8.6	6.8
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4
2年	学校	105	66.1	48.5	50.4	41.7	53.9	7.2	6.2	12.1	5.1	7.5
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	7.3	6.3	11.7	5.0	7.6
1年	学校	113	61.7	56.5	56.3	67.3	67.2	10.1	3.1	8.9	3.7	4.2
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	54.9	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	105	112.3	99.3	156.6	106.7
	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
	120	(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	28.61	23.27	39.01	50.18	74.59		8.31	188.02	17.41	31.80
	大阪市	28.65	26.89	43.47	51.80	80.14		8.06	195.02	20.28	41.69
	全国	28.95	26.09	45.12	51.64	78.82		8.00	197.51	20.74	42.20
2年 女子	学校	22.29	17.44	39.28	42.88	53.40		9.33	151.55	10.99	37.43
	大阪市	23.12	22.70	46.32	46.59	53.12		9.03	166.76	12.20	48.14
	全国	23.15	21.70	46.99	45.74	50.60		8.97	166.44	12.43	47.58

令和7年度 放出中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

●全国学力・学習状況調査結果(3年生)

【国語】 全国と比較して、平均正答率が、「話すこと・聞くこと」領域では0.6ポイント上回り、「書くこと」の領域では6.3ポイント下回り、「読むこと」の領域では同じであった。全国の平均正答率1.3ポイント及ばなかったが、平均無回答率では全国平均よりも0.9ポイント上回り、まなびに積極的に向かう姿勢が見られる。

【数学】 全国と比較して、平均正答率が、「数と式」の領域では3.7ポイント下回り、「図形」の領域では1.6ポイント下回り、「関数」の領域では1.0ポイント上回り、「データの活用」の領域では2.7ポイント下回っていた。平均無回答率は1.9ポイント上回った。

【理科】 全国と比較して、IRTバンド5が3.2ポイント、IRT4が0.5ポイント下回り、IRT3が2.6ポイント、IRT2が2.4ポイント上回った。IRT1は1.2ポイント下回った。

【今後に向けて】

【国語】 得意分野と苦手分野の差がかなりでている。特に書くことに関する事項が全国平均正答率との差が開いているので今後の課題である。

【数学】 日々の授業での反復練習を積み重ね、計算力を定着させていく必要がある。習熟度別授業をより充実させ、全体的な底上げが必要になる。

【理科】 得意分野と苦手分野に差が出ている。特にIRT5で全国との差が出ているので今後の課題である。

●3年生チャレンジテスト結果について

【国語】 平均点は、大阪府平均よりも1.9点上回った。無回答率は、大阪府平均より1.5ポイント上回った。

【社会】 平均点は、大阪府平均よりも2.7点下回った。無回答率は、大阪府平均より0.6ポイント上回った。

【数学】 平均点は、大阪府平均よりも3.5点下回った。無回答率は、大阪府平均より0.2ポイント下回った。

【理科B】 平均点は、大阪府平均よりも4.3点下回った。無回答率は、大阪府平均より2.4ポイント上回った。

【英語】 平均点は、大阪府平均よりも0.7点下回った。無回答率は、大阪府平均より0.6ポイント上回った。

【今後に向けて】

平均正答率で大阪府平均点を上回っている教科もあるが下回っている教科もある。全体の点数分布を見ると成績上位グループと成績下位グループの差が激しく、中間グループが少ないのが特徴である。

下位グループは基礎基本の徹底に取り組み、上位グループには応用力をつけさせるために入試対策に取り組んでいく。

●大阪市英語力調査(GTEC) CEFR A1 レベル 62.5% (大阪市平均60.3%)

大阪市と比較して全ての項目で上回っている。全体としては大阪市平均を上回ることができた。今後もC-NET授業などでコミュニケーション力を身につけさせながら、英語力向上を目指していく。

●1, 2年生チャレンジテスト、チャレンジテストプラス 結果について
(1年生)

【国語】大阪府と比較して、平均点は1.4点下回り、無回答率は0.1%上回った。

【数学】大阪府と比較して、平均点は4.6点下回り、無回答率は0.1%下回った。

【英語】大阪府と比較して、平均点は2.0点上回り、無回答率は0.7%上回った。

【社会】大阪府と比較して、平均点は1.8点上回り、無回答率は0.1%下回った。

【理科】大阪府と比較して、平均点は2.0点上回り、無回答率は同じであった。

(2年生)

【国語】大阪府と比較して、平均点は1.6点上回り、無回答率は0.1%下回った。

【社会】大阪府と比較して、平均点は4.2点上回り、無回答率は0.1%上回った。

【数学】大阪府と比較して、平均点は4.6点下回り、無回答率は0.4%下回った。

【理科】大阪府と比較して、平均点は5.0点下回り、無回答率は0.1%下回った。

【英語】大阪府と比較して、平均点は2.1点上回り、無回答率は0.7%上回った。

【今後に向けて】

平均正答率で大阪府平均点を上回っている教科もあるが下回っている教科もある。全体の点数分布を見ると成績上位グループと成績下位グループの差が激しく、中間グループが少ないのが特徴である。

下位グループは基礎基本の徹底に取り組み、上位グループには応用力をつけさせるために入試対策に取り組んでいく。

●全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

体力合計点 男子31.80(全国42.20 大阪市41.69) 女子37.43(全国47.58 大阪市48.14)

男子について全国、大阪市をすべて下回っている。

女子については20mシャトルランは全国、大阪市を上回っていたが、その他の種目はすべて下回っている。

今後は保健体育科を中心に前向きに運動に取り組む姿勢を学校全体に浸透させていきたい。

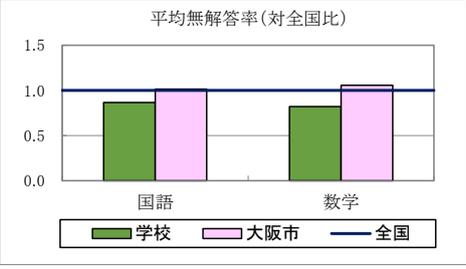
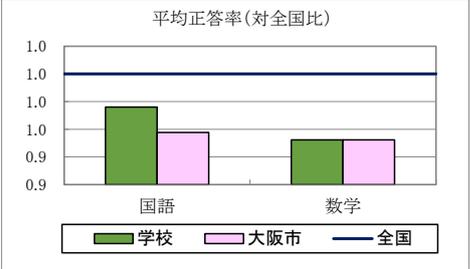
令和7年度 放出中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	53	46
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	5.8	8.7
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6

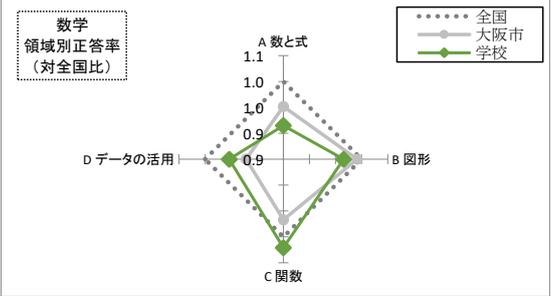
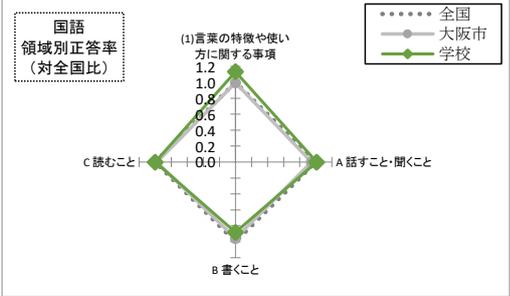
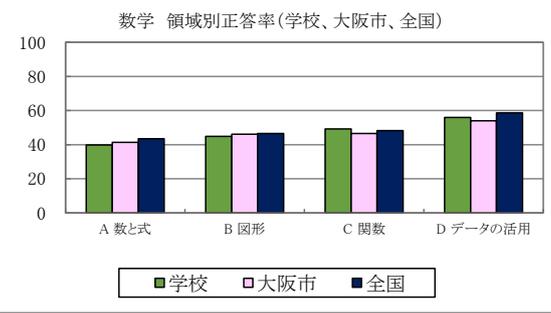
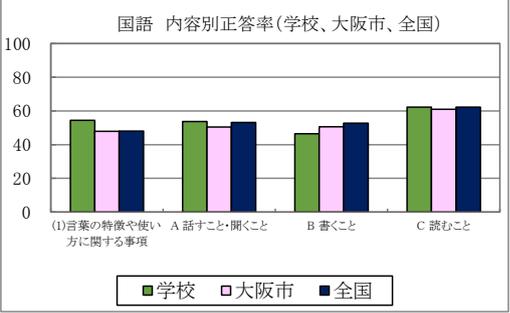


【 国 語 】

【 数 学 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	54.5	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	53.8	50.4	53.2
B 書くこと	5	46.5	50.6	52.8
C 読むこと	3	62.3	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	39.8	41.4	43.5
B 図形	4	44.9	46.1	46.5
C 関数	3	49.2	46.6	48.2
D データの活用	3	55.9	54.0	58.6

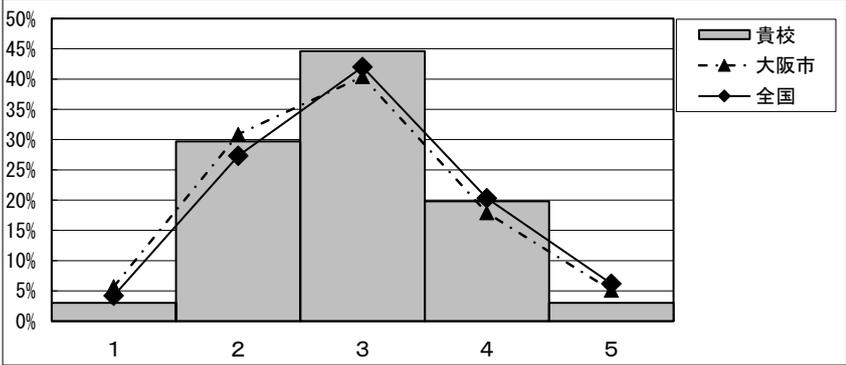
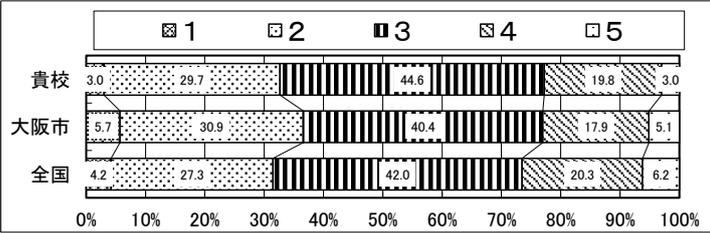


令和7年度 放出中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	492
大阪市	489
全国	503



令和7年度 放出中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

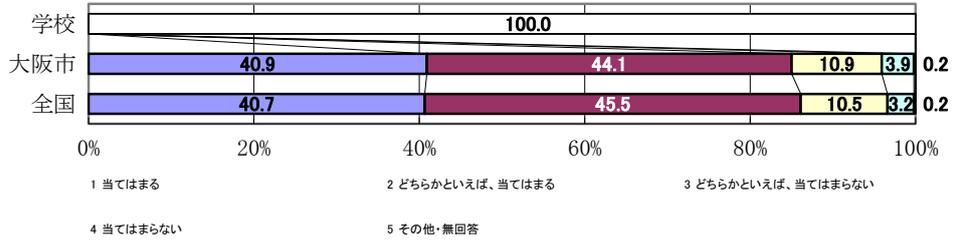
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

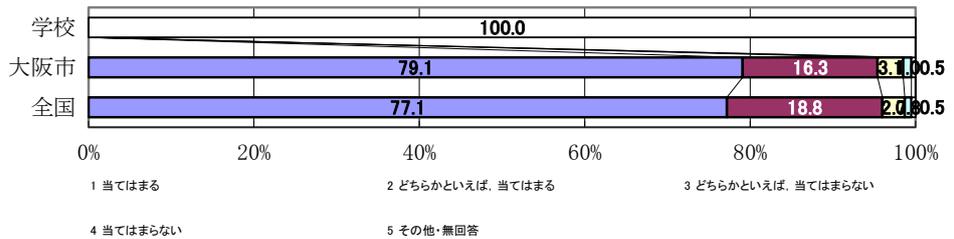
5

自分には、よいところがあると思いますか



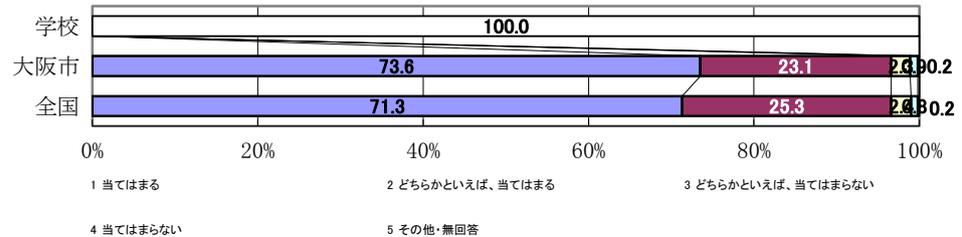
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



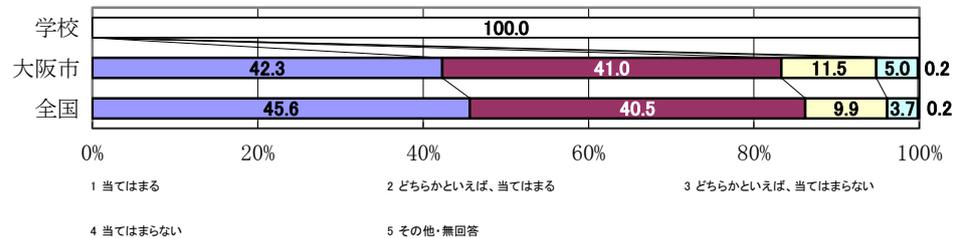
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



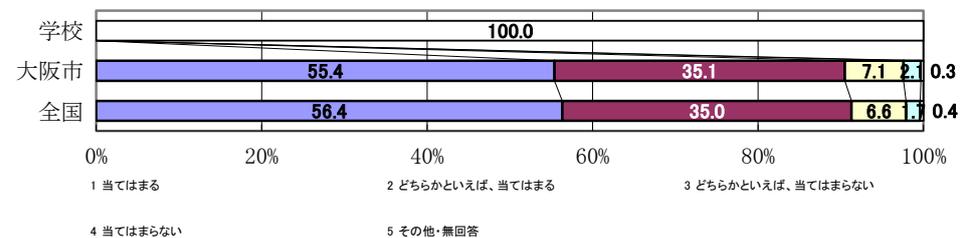
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



14

友達関係に満足していますか



令和7年度 放出中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

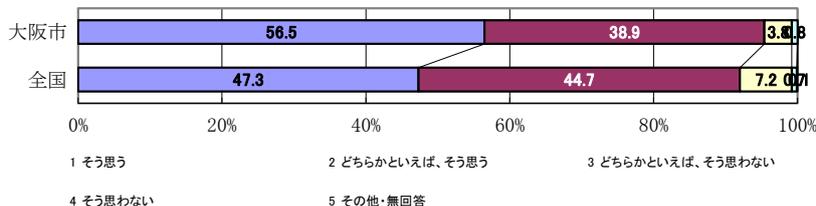
□ 1 □ 2 □ 3 □ 4 □ 5 □ 6 □ 7 □ 8 □ 9 □ 10

質問番号
質問事項

8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

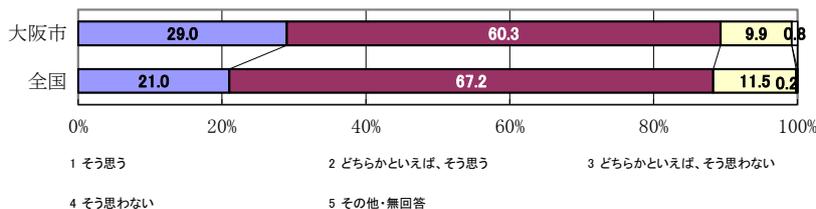
学校「」を選択



25

調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

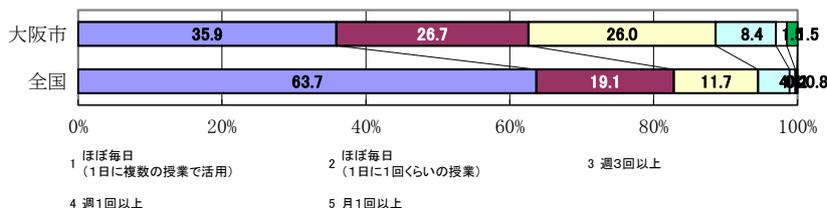
学校「」を選択



58

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

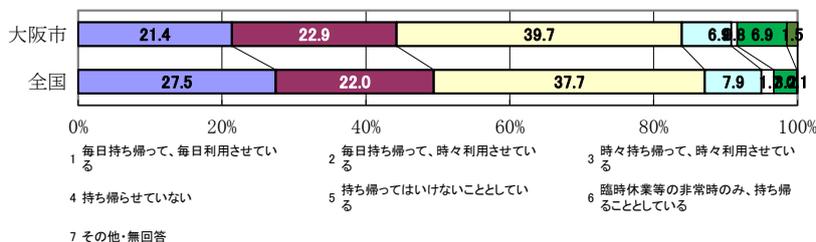
学校「」を選択



66

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

学校「」を選択



80

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

学校「」を選択

